

平成29年度第1回大阪府総合教育会議

議事録

日時 平成29年9月14日(木) 10時00分～11時00分

場所 特別会議室(大)

出席者 知事 松井 一郎

教育長 向井 正博

教育委員 竹若 洋三

教育委員 井上 貴弘

教育委員 岩下 由利子

教育委員 良原 恵子

教育委員 岡部 美香

<大阪府立長吉高等学校>

校長 南野 起一

<大阪府立三国丘高等学校>

校長 山口 智子

<大阪女学院高等学校>

校長 廣田 雅司

1 開会

(本屋室長) それでは、ただいまから「平成29年度第1回大阪府総合教育会議」を開催させていただきます。皆様におかれましては、何かとお忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を務めます大阪府政策企画部企画室長の本屋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定に基づき、設置しているものでございます。

資料として、お手元に各学校発表資料、要綱等を用意しております。

本会議は公開で行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、知事からご挨拶をお願いいたします。

(松井知事) おはようございます。

日頃、教育長並びに教育委員、学校関係者の皆さんには教育施策を推進いただき、ありがとうございます。

大阪府では、平成25年3月に、私と教育委員会とで教育振興基本計画をとりまとめました。

大阪の子供たちに、自らの力で社会を生き抜き、自らを律しながら社会を支え、粘り強く果敢にチャレンジしてもらいたい。そして、大阪という都市の将来を支え、発展させていく人材として育ててほしいというのが私の思いであります。この思いは今も変わっておりません。

この思いを継続し、これからの新しい時代に対応できる子どもたちを育てるために、本日は「子どもたちの社会的自立に向けた力の育成」について、教育長、教育委員の皆さんと有意義な意見交換をしたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(本屋室長) それでは、議事に移らせていただきます。お手元の資料の資料3をご覧ください。「大阪府教育振興基本計画の進捗について」という資料でございます。

大阪の教育の振興にあたりましては、平成25年3月に策定した教育振興基本計画における事業計画に基づき、具体的な取組みを進めているところです。

資料の一番上、「前期事業計画（H25年から29年度）における進捗状況について」の成果といたしましては、

- ・基本方針2「公私の切磋琢磨による高校の教育力を向上させます」の「グローバルリーダーズハイスクールの大学進学率の向上」
- ・基本方針3「障がいのある子ども一人ひとりの自立を支援します」の「支援学校整備や「個別の教育支援計画」を作成する学校が増加」
- ・基本方針5「子どもたちの健やかな体をはぐくみます」の「公立中学校における学校給食の大幅な向上」
- ・基本方針7「学校の組織力向上と開かれた学校づくりをすすめます」の「府立高校の情報公開率100%の達成」
- ・基本方針8「安全で安心な学びの場をつくります」の「府立学校の耐震化率100%の達成」

などが挙げられます。

次に、一方で課題としましては、

- ・基本方針2「公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます」にあります「高校卒業者の就職率や高校生の中退率は全国に比べて厳しい状況」

- ・基本方針4「子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます」の「夢や目標を持っている児童生徒の割合が減少傾向」

などがございます。

また、「教育をめぐる動き」としましては、「学習指導要領の改訂」に記載のある、第4次産業革命やグローバル化の進展など変化が激しく、予測困難な時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力の育成や、大学入試改革などの「高大接続改革の推進」など、これから未来に生じるであろう新たな課題への対応も必要となってまいります。

こうした前期事業計画の進捗状況や今後の新たな課題を踏まえ、本日は

- ・コミュニケーション力の育成
- ・生徒のモチベーションを向上させる魅力ある授業づくり
- ・生徒の主体的な学びや目的意識の醸成、さらに夢や目標を持ち、実現できる力の育成等を先進的に実施している学校に取組みを発表いただきます。

その後、後期事業計画の策定に向けて、「子どもたちの社会的な自立に向けた力の育成」というテーマで、知事と教育委員とでご議論いただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

まず、教育長から一言お願いします。

(向井教育長) 教育長の向井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

少しお時間頂きまして、しゃべらせていただきます。

まず、大阪の教育ですけれども、先ほど知事のご挨拶にありましたように、平成25年の3月に策定をいたしました「大阪府教育振興基本計画」に基づきまして、一人ひとりの子どもたちが、自立に必要な知識、また技能を身につけて、将来に向けてチャレンジできる力をはぐくめるように、「すべての子どもの学びを支援する」ということを最も大切に取り組を進めてきております。

本日のテーマでございますけれども「子どもたちの社会的自立に向けた力の育成」ということで、本当に厳しく、激しく変化する時代の中で、子どもたちが夢を探して実現するためには、主体的に学びを続けて、新たな価値を生み出していく力、この力を身に付けていくことが必要となってきています。

次期学習指導要領においては、未来の創り手となるために必要な資質と能力を育成するということが重要なメインテーマとなっておりますのでございます。

本日は、先進的な取組みを進めております高校3校からそれぞれ発表をしていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

これらの学校の実践事例を通じまして、子どもたちが「これからの時代を生き抜く力」をどのように育成すべきかにつきまして、忌憚のない意見交換をさせていただきたいというふうに思っております。

また、今年度、教育振興基本計画に基づきます後期の事業計画を策定する予定でございます。

本日いただきましたご意見につきましても大いに参考にさせていただきます。どうぞよろ

しくお願いいたします。

2 取組事例の報告、意見交換

(本屋室長) それでは、長吉高校、三国丘高校、大阪女学院高校から取り組み事例を発表いただきます。

まずは、長吉高校からよろしくお願いいたします。

それぞれの学校の取組みについて説明。

- ・府立長吉高等学校（資料4）
- ・府立三国丘高等学校（資料5）
- ・大阪女学院高等学校（資料6）

(本屋室長) ありがとうございます。それでは各学校の事例を踏まえまして、知事と教育委員の皆さんとで意見交換をしていただきたいと思います。

(井上委員) 三国丘高校さんと大阪女学院高校さんにお伺いします。他のグローバルリーダーズハイスクールの探求の授業とか見せていただきましたが、取り組まれている内容を見ると、非常に充実した内容を実施されていると思います。大阪女学院さんの国際バカロレアは、3年前くらいに、東京都立国際高等学校の説明会に見に行ったことがあって、こちらも非常に濃密な授業をされるという印象はありました。お伺いしたいことは1つで、各々で中学校までに一定の学力を付けるということが必要なことかなと思いますが、それ以外に何か身に付けておいてもらいたいみたいなことはあるかどうか。どういった力を付けておいてもらいたいとか、どういう思いを持っておいてもらいたいとか。

(山口校長) 思いは、失敗を恐れないこと。このことは本校の生徒たちにも言っています。失敗するところから学ぶことというのが、非常に多いです。先ほど、グランプリの成果を発表しましたが、そうではなくて、グランプリには落ちて、失敗をした子が、また、頑張っってその後、探求活動しっかりやっています。めげない力を常に伝えています。もう「失敗を恐れるな」と。失敗から学ぶことのほうが大きいよと。

(廣田校長) チャレンジする気持ちが大事だと思います。

実は、先程説明の中には入れませんでしたけれども、今、6科目のうち2科目を英語で授業するように言われています。1科目に変わるかもしれませんが。英語は英語で授業します。それから、数学も英語で授業をすることにしています。ですから、ある程度の英語力があつたほうが良いということです。

それから、国際バカロレアの2年間は留学が出来ません。国際バカロレアというのは、何歳から何歳までの間の2年間でやることになっています。ですから、国際バカロレアの生徒はものすごく忙しいです。それから、先程申し上げたハイレベル240時間とか、スタンダードでも150時間。これを日本の教育の中で導入することが難しいです。なぜかと言うと、先程11月から試験があると言いました。高校3年生の10月の終わりまでに2年間と言っても丸2年あるわけではありません。その間で240時間やろうと思いましたが、大変なことです。途中で留学したら、その時間が空白になる。ですから、基本的に留学は出来ません。その中で、いわゆる留学、海外の大学に進学しようと思えば、TOEFLは、最低カレッジで、60ぐらいは必要になります。そうすると日本のこの英語教

育の中で60まで伸ばそうと思ったら、大変です。元々国際バカロレアに入って来る子どもたちは海外の大学の進学を考えるといます。大阪女学院は「英語の女学院」と言われていますように、かなりそういったノウハウは持っています。持っていますけれども、かなり厳しいのは分かっているので、入学して来る子ども達には、英語のハードルを設けています。ただ、先程申し上げましたけれども、これは英語を学ぶためのシステムでは基本的にはありません。日本語で、それぞれに真理に向かって勉強していくというシステムです。

(本屋室長) ありがとうございます。

(岩下委員) 3校のこの教育は、これからの社会に不可欠である生き抜く力が備わるものだと思います。そして、人間力の向上が期待されると私は思います。この取組みにあたって、長吉高校さんと三国丘高校さんに2点質問。この教育、この取組みについて一番大切にしていることと、生徒に一番変化が出たことをお聞かせ願います。

(南野校長) まず、基本的なルールを教えることから始めないといけません。だから、コミュニケーションのルールを教えていくと、お互い話が聞けるとか、相手を認め合うとか、そういうことに繋がっていき、拡散的に物事を考えられます。

もう1つ、チームワークを大切にすることについては、我々生きて行く中で、チームでいつまでに何かをする必要があるということは絶対あります。ルールを教えてながら、拡散的に考えたり、収束的に考えたりするトレーニングを実践することで、将来社会に出た時に何か活かせるかなと考えています。そうした力がついてほしい。

それともう1つは、どのぐらい相関があるかというのは難しいですが、今の3年生はこういう活動をする中で、遅刻が減っているといった行動にも表れていると思います。本来、遅刻はないほうがいいのですが、現実にはありますので。しかし、徐々に遅刻が減っていることは成果だと思っています。

(山口校長) まず、大切にしていることは、いろいろなことに取り組ませること。探求活動に取り組んでいるが、ほとんどはクラブ活動もやっております。最初に言いましたように知力・体力・精神力、バランス良く、何にでもチャレンジすると言うか、限られた時間の中でも、いろいろなことをチャレンジしてやっていこうということは大事に思っております。また、社会に貢献出来るような人材になってほしいというのは常に生徒たちにも言っていることです。

それと生徒が変わった点は、いろんな発表の場を与えらるともう本当に思った以上に伸びがある。ああ、こんなにすごい力を持っているんだなど、教員の予想を相当超えます。外部講師から、高校1年生に対して、大学生に教えるようなことを教えていただいても、こなしていきます。ですから、場を与えるということは、すごく大事だと思っています。

(岩下委員) ありがとうございます。

(岡部委員) それぞれの学校での取組み、大変興味深く聞かせていただきました。それぞれの学校に1つずつ質問させていただきます。

まず、長吉高校さんですが、学力を上げて行くためには、学力が優れた子どもたちだけではなくて、全員の底上げをすることが、府の一番の課題だと思っています。学び直しというのは本当にそこに一番貢献する授業の1つだと思っています。その中でコミュニケーションを大事にされていて、他人と繋がって行くと共に、お互いの自己肯定感を高めていく

という試みをされているということは非常に印象的でした。他人の発言を否定しないということは、お互いの自己肯定感を高めていくということに重要なことだと思いますが、そこに留まらずに相手の話に自分の意見を繋げていって、一人では出てこないような意見をみんなで出し合う協働に繋げるには、何か工夫が必要になってくると思います。外部人材にそれをお願いしているとか、何か工夫がありましたら、教えていただきたいです。先ほどの岩下委員の質問にも関わりますが、それがこう世界に育っていけばいいなという先程の願いに繋がっていくことがあれば伺えればと思っています。

次に、三国丘高校さんに質問します。理系の探求活動と、それからグローバルリーダーということでフィリピンに行かれるような活動と、2つの活動がとても充実しているということをお伺いしてすごく興味深いものでした。特に **PISA**、**TIMSS** 等の学力調査をみると、理系の学力が伸び悩んでいるということは問題です。また、社会的な貢献というところに繋がっていかないというのが日本の一番難しいところです。高校で学んだことをどう自分たちの社会に活かすのか、科学の発展であるとか、世界的な貢献というところだけではなく、自分たちの社会の発展に繋げていくということがなかなか日本の生徒たちの弱いところです。理系の探求活動ということが、日本の社会や地元の発展であるとか、日本の貧困問題だとか、身近な課題に繋がっていくことがあるのかお伺いします。

最後に大阪女学院さんに対して、国際バカロレアというのは本当に大変だと思います。ただ、国際バカロレアが国際化の突破口だと思っていますので、ぜひ実現してほしいと思います。ヨーロッパの歴史というのは、国の歴史でもあるが、国の境界も変わってきており、一体となってヨーロッパというのを作ってきました。ここに日本の子どもたちをどのように自分たちの歴史として関わらせていくのかというのが、日本でバカロレアを持ってくる時の1つの大きな課題だと思います。ヨーロッパの子どもたちを育てるのではなく、ヨーロッパと関われる日本の子どもたち、大阪の子どもたちを育てていくとなるのであれば、今学んでいることを子どもたちがどう活用して結び付けていくかというところが、課題だと思います。そういったところに何か工夫をされていること、課題を持って先生方が取り組んでいることがありましたら伺いたしたいと思います。

(南野校長) コミュニケーションをとる取組みをする時に、外部の力、大阪大学の先生と大学院生にご協力いただき、授業に入っていただいて、実践いただいています。教員はそれを見ながら、ノウハウを勉強させていただきました。

また、いろいろな意見を出し合って、誰がファシリテートしていくのかという点については、現実的には主に女子がその役割を担っています。男子は調整が苦手です。女子は、積極的なところがあり、中心になる女子が自然に出てくるというのが現状です。それをどう作って行くのかというのは課題だと思いますが、実際は女子がまとめてくれるということが現実としてあります。だから、今、言われたようにそうやって生徒がまとめる力を付けるというのは本校の課題だと思います。

(山口校長) 理系の社会貢献ということですが、様々な最先端の研究の科学者の方に来ていただいた時には、いかに自分の研究というのは面白いかを語っていただいて、研究のポリシーなどをまず身近に聞かせてもらっています。そして、あと研究課題を持っておられます企業の方の話聞くようにしています。それについては、理系、文系問わず、一緒にそういうこともいたします。そうしたことを通じて、生徒も自分たちで自身の興味のあることを研究課

題として見つけます。それは最先端のことではないかもしれませんが、自分たちの興味のあることというのは割と身近なところから出発します。そういう生徒自身の興味を大事にしていくということです。

(廣田校長) 私、歴史の教師ではなくて、理科の教師なものですから、きちんと的確な答えが出来るかどうかわかりませんが。まだ国際バカロレアの授業は始まっていないのですが、国際バカロレアで、身に付けるべき力というのは、史実上の事実を正確に理解して、その知識に対して自分なりの意見や立場を持つ。そして、その過去を考察することによって、現代社会における自分自身の役割についても、考える能力を身に付けさせるということが目的になっております。ですから、ヨーロッパの歴史とか、いろいろな歴史の中で、いわゆる将来の自分に関わらせるというふうなことが最終的な力になっています。ですから、今歴史の転換点にきていると思います。これから本当に今までの過去の歴史がだいぶ書き換わりつつありますよね。歴史に関しては転換点だと思います。

(岩下委員) 3校の校長先生方にお伺いしたいと思います。

長吉高校は「他を否定せずに自己主張のできる力」、三国丘高校は「思考力・判断力・表現力」、大阪女学院は、「考える力、生涯学び続ける力」を育成しようとされていますが、そのために工夫されているところ、また工夫したいことをお聞かせください。

(南野校長) とにかくルールを守らせることです。普段の学校生活もそうですし、まずはルールを守ることによってみんなが成り立つということを生徒には伝えていきます。徹底してそのところだと思います。

(山口校長) 従来のような一方通行ではなくて、お互いの中で意見交換するという。普通の授業の中でも重要視してやっています。

(廣田校長) 国際バカロレアは、教員が教えてはいけない、答えは絶対言ってはいけない、導いてもいけないのです。生徒が自分たちで考えて、そしていろいろな人の違う考えを聞きながら、討論していきます。それが最終的に一生涯学ぶ力になると思います。国際バカロレアの研修に行かれた先生方は、国際バカロレアを大学院の授業みたいとおっしゃいます。こうした取組みが生涯学び続ける力になると思います。

(岩下委員) はい。ありがとうございます。

(竹若委員) 3校とも非常にいい取組みを聞かせていただいて、大阪の教育の向上に非常に素晴らしいなと思います。大阪女学院さんは国際バカロレアの準備をいただいているわけですが、保護者に説明会をされていますよね。その保護者の反応を聞かせていただけますか。また、コースの人数が何人ぐらいを考えているかご教示願います。

それと長吉高校さんと三国丘高校さんは、大変ご苦勞しながらも、成果をあげていただいて感謝するわけですが、問題は維持していこうと思ったら、教員の意識改革、またその意識をより向上させていくことだと思います。その点について簡単にご意見をお願いします。

(廣田校長) 国際バカロレアについて、あまり学校の宣伝に使ってはいけなかったのですが、8月からやっと広報できるようになりました。基本的に国際バカロレアは、標準が1クラス25名です。ただ最初の年度に関しては15名募集をさせていただきます。問い合わせは非常に多いです。

(山口校長) 意識改革を続けていくのは非常に苦勞があります。他府県など、様々なところを取組みを

見に行つて、意識して取り入れています。それは、次期指導要領の中にも求められていきますし、教員自身が学び続けることで、意識改革を実践しています。

(長吉高校) 長吉高校の場合は、教員が自分の専門科目だけを教えたいという傾向がありまして、エンパワメントタイム等の時間を本音で言いますと、あまり持ちたくないという気持ちがあると思います。それを防ぐために、最初4人でこの授業を持つとなった時に、次の年はその内1人を入れ替えるなどして、何年間かで教員全員に授業を持たすようにしています。とにかく全員担当させることで、自分が担当すればやらないといけないという意識になりますので、そこを考えております。

(松井知事) 大阪女学院さんと三国丘高校さんは、中学から高校へ入ろうとする時点で、その子どもたちは大体明確とまでは言わなくても、自分のなんか人生こういう方向に進みたいという目標をもってきていると思います。でも両校とも、そういうことを目指す子どもたちが切磋琢磨しているのです、その中でも競争があると思いますが、そこでくじけてしまう子どもはいるのですか。途中でくじけて不登校になるとか、もう辞めてしまうとか。

(廣田校長) います。

(松井知事) どのくらいいますか。

(廣田校長) 不登校は、やっぱり各クラスいます。

(松井知事) そうですか。

(廣田校長) はい。各クラスにそういう傾向の子がいますので、そうした生徒を支援するためのシステムは作ってやっています。

(松井知事) 三国丘高校どうですか。

(山口校長) 様々な機会を与え、いろんなことをやらせていますので、勉強でだめでも、クラブでどうか、演劇やって文化祭でヒーローになれるとか。勉強以外でもヒーローになれるようには心がけています。生徒にはいろんなことをやらせようと思っています。

もちろん、不登校も学年で1人、2人はいますけれども、それはきちっと対応させていただいています。

(松井知事) 退学はどうですか。

(山口校長) 退学はほとんどいません。

(松井知事) ないですか。

長吉高校は学び直しという点で取り組まれていて、遅刻は大分減少していますけど、不登校、退学はどうですか。

(南野校長) 前の体制に比べれば中退も半減して、毎日来るという前提の学校になっています。

(松井知事) 長吉の方が不登校に対する対応策をもっているのでは。

(南野校長) 正直、不登校の生徒は多いです。昔は退学する傾向はあったと思いますが、今は多様な形で転入させてもらえるので、長吉高校が合わないのなら、そういうところへ行くように勧めたりしています。例えば、朝起きられないということであれば、時間帯の違う定時制とか、通学できないのであれば通信制とか。とにかく、入学する学校、勉強する学校、卒業する学校は違っていいと思うので、どこかで卒業してくれたらいいというのが、私たちが思っていることです。もちろん長吉高校で卒業してくれるといいのですが。現実、人間関係や、家庭の問題を抱えている生徒が多いので、なかなか学校だけの対応では難しいかなという点があります。

(松井知事) わかりました。どの学校でも不登校はあるということで、課題がありますよね。

(本屋室長) よろしいでしょうか。それでは少し時間が過ぎましたが、これをもちまして意見交換の方は終了させていただきます。

3 閉会

(本屋室長) それでは教育長から一言お願いします。

(向井教育長) 昨年4月に教育庁になりまして、これまで以上に公立と私立の生徒の切磋琢磨に加えて、研修も一緒にやっていただいて、教員も切磋琢磨し、いい結果が出てきていると思います。特にグローバルリーダーズハイスクールについては、現在、三国丘高校などは文理学科と普通科が分かれていますけれども、文理学科のみの高校を10校に増やしていく予定です。これは各学校現場や生徒から要望があったということでやらせていただきます。それとエンパワメントスクールについては、現在6校ですが、これも10校程度に増やしていきます。2つの違った取組みを実践する学校の形ですが、結果もきちっと出しているということで、非常に分かりやすいかなと思っています。ただ、府立138校、私学95校、その中でそれぞれ各学校が特色を出してやっているんですけども、限られた3年間の中で、なかなかすぐに結果が出ないという状況もあります。今やっていることを地道に、継続的にやっていければというふうに考えております。

(本屋室長) ありがとうございます。

それでは最後、知事から一言お願いします。

(松井知事) 各学校の特色の中での取組みを聞かせていただいて、僕自身も非常に勉強になりました。子どもたちは高校3年間が終わってからの人生の方が長いので、学力は非常に大事ですけど、ぜひ人間力を子どもたちに伝えるような取組みを引き続きよろしくをお願いします。

(本屋室長) それでは以上をもちまして、平成29年度第1回大阪府総合教育会議を閉会いたします。なお、本会議の様子は後日大阪府ホームページに掲載させていただく予定としておりますので、よろしくをお願いします。

本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。